

発行：はつらつ編集局
発行日：平成 23 年 5 月 1 日
発行人：吉田 秀明
編集人：はつらつ編集委員
お問い合わせ：0135-23-3126



救急件数(4月)

外来受診185件 うち入院23件
救急車来院66件 うち入院29件

皆様からの義援金募金(1回目)

¥133,991

を日本赤十字社に送りました！
引き続き東北地方にエールを！

皆様のご協力ありがとうございました



平成 23 年 3 月 31 日の当院での講演会終了時にご案内させていただいた、「被災地に絵本とメッセージを届けよう」という趣旨には、大変多くの方のご賛同をいただきました。

集まった絵本は 200 冊を超え、メッセージも 50 余りとなり、去る 4 月 15 日に北海道の担当の方へお渡ししました。春の暖かな日射しと共に、皆様のお気持ちが一人でも多くの方の笑顔に届きますように。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

外来看護師長 工藤 千春

新入職員紹介

事務部長 大久保 善之(おおくぼ よしゆき) 函館市
新人の謙虚さを持つベテランですが、少しでもお役に立てるよう頑張ります。強面(こわおもて)ですが凶暴ではありませんの気軽に声をかけて下さい。

内科主任医長 本江 正臣(もとえ まさおみ) 小樽市
幅広い内科診療を通じて、生活を支援できるような「かかりつけ医」でありたいと願っております。

外科医 宮崎 大みやさき だい 河東郡上士幌町
帯広厚生病院から来ました。余市協会病院の皆様と働けるのを楽しみにしています。頑張りますので、よろしくお願いします。

用度係長 米澤 利雄(よねざわ としお) 虻田郡京極町
この度、帯広よりこちらにお世話になることになりました。早く環境にも慣れ、余市病院の戦力になりたいと思います。

作業療法士 宮保 正貴(みやほ まさたか) 小樽市
作業療法は新しく開設なので、皆さんに知っていただけるように努力します。

理学療法士 荒又 茂徳(あらまた しげのり) 小樽市
結構な年ですが、学校出たての新人です。フレッシュさは足りませんが一生懸命頑張りたいと思います。

理学療法士 島山 香南(はたけやま かな) 旭川市
余市協会病院の一員として、責任を持って頑張っていきたいと思っています。まだまだ未熟ですが、よろしく願います。

理学療法士 古谷 昭子(ふるや あきこ) 石狩郡当別町
いつも明るく元気に頑張ります。患者様のために精一杯努力します。

臨床工学士 岡崎 博一(おかざき ひろかず) 江別市
患者様から信頼される技士を目指して、一生懸命努力していきます！

臨床工学士 田村 和久(たむら かずひさ) 千歳市
患者様のために一生懸命、笑顔で頑張っていきたいと思っています。

看護師 大道 綾子(おおみちのりこ) 河東郡音更町
いつも笑顔で精一杯頑張ります！よろしく願います。

看護師 佐藤 寛昭(さとう まゆ) 河東郡鹿追町
明るい笑顔で一生懸命頑張ります。ご指導よろしくお願いします。

看護師 田中 結佳(たなか ゆか) 帯広市
明るい笑顔と元気をモットーに頑張ります！

看護師 長尾 真由子(ながお まゆこ) 帯広市
ご迷惑おかけすると思いますが、よろしく願います。

看護師 山崎 美穂(やまざき みほ) 余市町
笑顔忘れずに頑張ります。ご指導よろしくお願いします。

看護師 船水 良太(ふなみず りょうた) 余市町
自分の地元であるこの病院で一生懸命頑張ります！

看護師 山口 真由(やまぐち まゆ) 雨竜郡沼田町
社会人一年目でいたらない点もたくさんありますが、日々精一杯頑張ります！

看護師 山崎 美穂(やまざき みほ) 余市町
笑顔忘れず、一人前の看護師になれるよう頑張ります！

看護師 脇本 和真(わきもと かずま) 小樽市
いつでも笑顔で一生懸命頑張ります。

准看護師 水戸 梨葉(みと りな) 札幌市
ご迷惑おかけすると思いますが、ご指導よろしくお願いします。日々、成長できるよう頑張ります。

5月15日 看護の日フェア

“看護の心をみんなの心に”をメインテーマに、ナيتينゲールの誕生日である5月12日を記念して、この日を含む1週間は、看護週間として、気軽に看護に触れていただける様々なイベントが各地で行われています。

私たち、余市協会病院でも、余市イオンにおいて看護のPR活動として、職員による青空健康チェックを予定しています。皆さま、お問い合わせの上、ぜひお越しください。

◆日時：5月15日(日)
10:00~12:00

◆場所：余市イオン(南側玄関前)

◆内容：血圧測定、血管年齢測定、栄養相談、健康相談、ミニ看護師撮影会など



余市協会病院

研修医リレーコラム37「放射線による健康被害」

東日本大震災から早1ヶ月が経ちました。被災者の方々には心よりお悔み申し上げます。

つい先日東京で学会がありましたが、電力不足とのことで節電真最中、薄暗く不気味な感じがありました。僕らも負けじと病棟内は節電中。蛍光灯も半分消して日本の電力貯蓄に貢献できればと思っています。あつ、紹介遅れました今回は研修医の中島が担当させていただきます。

そこで今話題沸騰中の“放射線による健康被害”をクローズアップしてみたいと思います。

まず最初に言葉の整理をしておきましょう！グレイ(Gy)とは物質が吸収する放射線の量であり、α線やβ線といった種類によって人体への影響が異なるため、放射線を受けた影響を表すのにシーベルト(Sv)が用いられます。

一般の人が年間に受ける放射線の線量は自然放射線も含めて1~2ミリシーベルト(mSv)と言われています。1回のレントゲン写真で0.06mSv、東京-ニューヨーク間1往復で0.2mSv、1回のCTはなんと6.9mSvも受けてしまうのです。ちなみに妊娠可能な女性の場合はレントゲン写真、CT撮像前は必ず妊娠の有無を確認します。

あと、臨床症状が出ないといわれる限界の放射線線量が200mSvです。ところが、福島原発で作業している方は250mSvまで上限が設けられていて白血球数が減少するといわれている値まで労働を強いられているわけです。ほんとに頭が下がります。

ここから先は自分の意見ですが、こうなってしまった責任は東京電力の人達だけではなく、私たち現代人が原子力に頼らざるを得ない社会を作り上げたことにあります。電気のあるところに文明は開発され、私たちも無意識に電気へ依存していました。今回の原発事故は10年20年先の過度の電力依存症への警鐘と認識して節電に取り組みましょう！

溪仁会の分電でんこ 中島健三郎